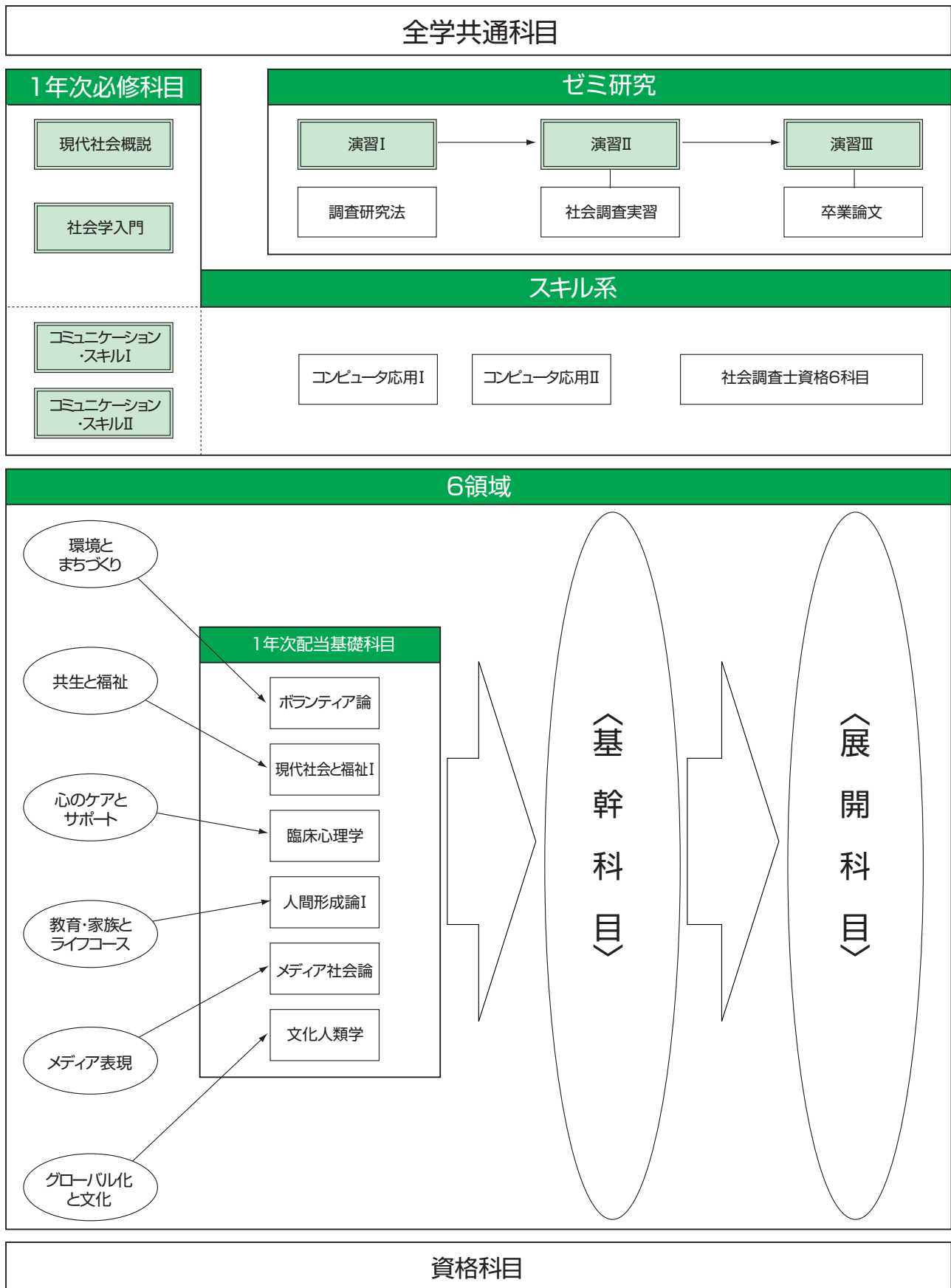


	1年		2年		3年		4年		卒業要件 (74単位)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	
共通・ゼミ研究	現代社会概説(2)		演習Ⅰ(4)		演習Ⅱ(4)		演習Ⅲ(4)		必修科目 20単位
	社会学入門(2)		臨床の社会学(2)	社会思想史(2)	社会学理論(2)		卒業論文(4)		
			調査研究法(4)		インターンシップ(2)	社会調査実習(4)			
	多文化共生フィールドワーク(2)								
	海外語学演習(2)								
	海外留学科目【単位は分割認定可】(16)								
スキル系	コミュニケーション・スキルⅠ(2)	コミュニケーション・スキルⅡ(2)	コンピュータ応用Ⅰ(2)	コンピュータ応用Ⅱ(2)					
	社会調査入門(2)	社会調査論(2)	データ分析論(2)	社会統計学(2)	多変量データ解析論(2)				
環境とまちづくり		ボランティア論(2)	環境社会学(2)	地域社会学(2)	ウェルビーイングの社会学Ⅰ(2)	ウェルビーイングの社会学Ⅱ(2)			
			市民社会史論(2)	市民活動各論Ⅱ(4)		ストレスと健康の社会学(2)			
			市民活動各論Ⅰ(4)						
共生と福祉		現代社会と福祉Ⅰ(2)	現代社会と福祉Ⅱ(2)	ソーシャルワーク論Ⅰ(2)	児童福祉論Ⅰ(2)	児童福祉論Ⅱ(2)	医療福祉論(2)		
			社会保障論Ⅰ(2)	社会保障論Ⅱ(2)	高齢者福祉論Ⅰ(2)	高齢者福祉論Ⅱ(2)			
			共同性と福祉の社会学(2)		障害者福祉論(2)	就労支援論(2)			
					ソーシャルワーク論Ⅱ(2)	ソーシャルワーク論Ⅲ(2)			
					生活保護と生活支援(2)	ソーシャルワーク論Ⅳ(2)			
					地域福祉論Ⅰ(2)	地域福祉論Ⅱ(2)			
					社会福祉史(2)				
心のケアとサポート		臨床心理学(2)	社会心理学Ⅰ(2)	社会心理学Ⅱ(2)	人間関係論(2)				
			発達心理学(2)	自己の心理学(2)	コミュニティ心理学(2)				
					臨床発達援助論(2)				
					健康心理学(2)				
6領域	人間形成論Ⅰ(2)		現代家族論(2)	ユースカルチャー論(2)	仕事と自由時間の社会学(2)	コミュニケーションと自己の社会学(2)			
教育・家族とライフコース			教育社会学Ⅰ(2)	ジェンダー/セクシュアリティの社会学(2)		教育社会学Ⅱ(2)			
			生きることの社会学Ⅰ(2)	青少年問題の社会学(2)		生きることの社会学Ⅱ(2)			
			人間形成論Ⅱ(2)	社会教育論Ⅱ(2)		結婚と家族の社会学(2)			
			社会教育論Ⅰ(2)	死と生の社会学(2)					
			現代社会論(2)						
			メディア社会学論(2)	マスコミ論(2)	現代ファッション論(2)	マスコミ特論(2)	現代メディア特論(2)		
				現代放送論(2)	イベントプロデュース論(2)	マルチメディア技法(2)			
				広告論(2)	ポピュラー音楽論(2)	メディア理論(2)			
				映像メディア技法(2)		音声メディア技法(2)			
				ジャーナリズム論(2)		出版メディア技法(2)			
				文化人類学(2)	国際理解教育論(4)	多文化社会学論(2)	文化の政治学(2)	博物館資料保存論(2)	
					宗教文化史(2)	観光文化論(2)	伝承文化(2)		
					エスノグラフィ論(2)	観光文化論(2)	医療の人類学(2)		
					博物館概論(2)	開発の人類学(2)			
					博物館概論(2)	博物館経営論(2)	博物館展示論(2)		
					演劇文化論(2)	博物館情報メディア論(2)	博物館教育論(2)		
					宗教の人類学(2)				
隣接科目	日本史概説A(2) 東洋史概説A(2)		日本史概説B(2) 東洋史概説B(2)		西洋史概説A(2) 哲学概論(2)		西洋史概説B(2) 倫理学概論(2)		
自由科目					自然地理学A(2) 地誌A(2)		自然地理学B(2) 地誌B(2)		

■ 必修科目 ■ 白抜き 社会調査士資格 □ 隔年開講科目

*自由科目は卒業要件に含みません。

カリキュラム構造の流れ



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

学部固有科目の履修について

卒業に必要な学部固有科目は、必修科目(20単位)、選択科目(54単位)で合計74単位必要です。

現代社会学概説(2単位)、社会学入門(2単位)、コミュニケーションスキルⅠ(2単位)、コミュニケーションスキルⅡ(2単位)は、1年生に配置された基礎科目群で、必修科目です。また、演習Ⅰ(4単位、2年生)、演習Ⅱ(4単位、3年生)、演習Ⅲ(4単位、4年生)は、ゼミ研究として必修科目です。こうした科目は、すべて履修し修得しなければ卒業ができません。しかも、演習のように2年生、3年生、4年生と学年ごとに配置されており、積み重ねによりその学習効果をねらいとしているため、履修には十分配慮しなければなりません。

基幹科目、展開科目はすべて選択科目ですので、54単位の履修をどのような科目の組み合わせによってもかまいません。領域の科目群から履修科目を選択し、自らの履修プランを作成し、履修していくことが可能ですが、先にも述べたように現代社会学部の教育の柱として設定した6領域の学びを理解した上で、主としてどのような領域を自分の学びの中心とするかを明確にした上で、履修する科目の選択をして欲しいと考えます。

学部固有科目と資格科目

現代社会学部では、社会調査士資格、社会福祉士(国家資格受験資格)をはじめ、多くの資格取得が可能です。こうした資格取得のために必要な科目は、学部固有科目の中にも含まれているものと、そうでないものがあります。含まれていないものは、資格科目として独自に設定されており、卒業単位には含まれませんので、履修には十分注意して下さい。

演習について「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(必修科目)

「ゼミ」もしくは「ゼミナール」とも呼ばれる演習は、教員と学生がコミュニケーションを深めながら、それぞれの教育をテーマに応じて個別研究や共同研究をすすめていく“研究の場”です。また演習は少人数の利点を活かして、教員と学生、あるいは学生同士が相互に発表や質疑・討論を交わしていく“表現の場”でもあります。同時に、講義では得られない親睦の機会も広がり、そうした交友関係を通じて市井的な見識を身につけていく“交流の場”ともなっています。演習の選択の際には安易な情報に流されず、付和雷同することなく、真剣に検討することが望まれます。

「演習Ⅰ」選択方法

演習の登録方法は1年生秋学期はじめに【ゼミ選択ガイダンス】にて説明があります(日時など詳細は秋学期開講日にALBOにてお知らせします)。当日配られる教員紹介資料や担当教員による【教員ゼミ(演習Ⅰ)説明会】などを十分参考にして選択して下さい。

「演習Ⅱ・Ⅲ」「卒業論文(選択科目)」の履修上の注意

以下の説明に従って履修して下さい。

- ①「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」は必修科目通年4単位です。原則「演習Ⅰ」と同じ所属教員(ゼミ)を春学期に履修登録して下さい。
- ②「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を修得していない学生も「演習Ⅲ」と「卒業論文」を履修することができます。ただし、必ず同時に「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修登録しなければなりません。
- ③「演習Ⅲ」を履修登録しないと「卒業論文」を履修登録することはできません(「卒業論文」のみの履修不可)。
履修登録は「演習Ⅲ」と同じ所属教員(ゼミ)を選択し春学期に行って下さい。履修登録をしていない学生、および「演習Ⅲ」と同じ所属教員を履修登録していない学生は、卒業論文を提出しても単位とならないので注意して下さい。
- ④「卒業論文」は選択科目通年4単位です。この科目は集中講義(時間外)として開講し、所属教員から時間外に論文指導を受けることとなります。
- ⑤卒業論文提出日程については11月にALBOにて発表します。提出方法については、学生便覧の該当ページを参照して下さい。提出日程は毎年12月最終講義日1日間、1月上旬の3日間、あわせて4日間を予定しています。

「演習Ⅱ・Ⅲ」の変更方法

演習は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」・「卒業論文」まで同じ所属(ゼミ)を継続し研究を深めることが望ましいですが、関心の変化等による変更も可能です。

- ①ゼミ変更希望者は、原則的に春学期の【CUBICS履修登録】までに、希望する変更先のゼミ教員と相談し、受け入れの可否を確認し、認められた場合に、『ゼミ変更届』を教務課に提出して下さい。
- ②『ゼミ変更届』は教務課窓口で受け取ります。『ゼミ変更届』に必要事項を記入し、変更先の教員の認印をもらい、教務課窓口へ提出して下さい。
- ③ゼミの変更は原則として【CUBICS履修登録】までに完了していただきたいのですが、新任の教員の着任等の理由により、変更手続きが4月に入ってからしかできないことがあります。このような場合や3月中に希望先のゼミ教員と相談ができなかった場合には、『ゼミ変更届』の提出期限は春学期履修登録修正期間とします。
- ④『ゼミ変更届』提出後、各自の責任において【CUBICSによる履修登録】をして下さい。
春学期履修登録修正期間に履修登録をしなかった学生は、いかなる理由があってもその変更は認められません。

履修者を制限する科目

現代社会学部の学部固有科目の中で一部の科目について、講義内容の特性・教室収容定員から履修希望者の制限をするものがあります。履修者制限をする科目かどうかは、「WEBシラバス」および「学科目時間割表」をよく読み確認して下さい。

主に収容定員制限する教室は、『コンピュータ演習室A・B・D』や『AVスタジオ』などがあります。

この教室を使用する科目は、履修者数が教室定員オーバーになった場合に制限を実施します。これら以外の教室でも講義内容の特性から履修制限する場合もあります。

履修制限の方法は下記の2通りあります。

①コンピュータ抽選

「学科目時間割表」の注で確認して下さい。履修登録後に抽選を行い、当選した場合はCUBICS上に科目が残ります。この抽選でもれても【CUBICSによる履修修正期間】に空きが出れば履修登録可能です。

②履修者が多く定員オーバーで教室に入室できない、あるいは授業の特性などの理由で履修を制限する場合。

このケースでは初回授業で授業担当教員が履修できる者を選択します。この結果、授業を受講不可となった場合は必ず【CUBICSによる履修修正期間】に各自で履修の取消し・変更を行って下さい。

※「コミュニケーション・スキルI・II」の再履修については【CUBICSによる履修修正期間】に履修登録して下さい。この科目については新入生を優先して履修登録を行います。

「海外語学演習」

- ①本学国際センター企画、主催の海外セミナーに参加、修了することにより、所定の単位を与えられます。セミナー終了後にレポートを提出して下さい。このレポートを含めて認定します(成績上には「N」として表記されます)。
- ②履修登録は不要です。履修制限単位に含めません。
- ③4年生においては、夏期海外セミナー(第7セメスター)は認定しますが、春期海外セミナー(第8セメスター)については認定しません。

「多文化共生フィールドワーク」

文化を異にする人々が共にによりよく生きるために活動する団体にボランティアとして加わり、ボランティア活動の記録を作成し合同発表会で報告することで単位として認めます。活動の場は、国内でも海外でも問いません。また、団体の種類は開発でも、福祉でも、まちづくりでも良いです。この科目を通じて、これから大学でなにをどう学ぶかを自分なりにつかんで下さい。

履修登録上の注意

- ①履修登録は不要です。履修制限単位に含めません。
- ②春学期または秋学期の履修登録の前に、9号館3階にあるフィールド・リサーチ・センターの職員に相談して活動する団体を決めて下さい。
- ③その団体の概要を記したレポート(2,000字以上)を提出し、授業担当教員から履修の許可を得て下さい。

単位取得上の注意

- ①活動時間は30時間以上であること。
- ②活動期間中、随時フィールド・リサーチ・センターに活動記録を提出し、記録の書き方等について、指導を受けて下さい。
- ③活動期間終了後、「活動記録」(4,000字以上)と「活動を終えて考えたこと」(1,200字以上)を提出し、授業担当教員の指導に従って修正したうえで、合同報告会で発表して下さい。合同発表会の日時は、ポータルサイト等でお知らせします。

「調査研究法」

2年生に開講される「調査研究法」は、以下のような科目です。

- ①演習(ゼミ)担当教員が、各演習の教育を進める上で必要と認める場合に開講されるもので、演習と結びついた科目です。但し、演習担当全教員が担当(開講)するものではありません。
- ②演習のなかで、学生が個別研究を進めるのに必要な調査研究法を身につけるために配置された科目です。講義内容は演習担当教員により異なりますが、調査の方法、実験の方法、文献解読の方法などが主です。
- ③他教員の演習を履修していても、履修は可能です。履修を希望する学生は、必ず初回の授業に出席し、教員の指示を受けて下さい。

「社会調査実習」

「社会調査実習」を履修するためには、原則として「社会調査実習」担当教員の「演習Ⅰ」を履修・修得することが、条件となります。詳しくは資格課程「社会調査士」の該当ページで確認して下さい。

「インターンシップ」

1. この科目は、3年生のみ履修ができます(再履修不可)
2. キャリアセンターが実施する「インターンシップガイダンス」に参加することが必要です(ガイダンス参加は必須要件)。ガイダンスに参加して、応募の流れから実習の実施、さらには単位認定に至るまでの一連の流れを詳細に確認します。
3. 一般企業・非営利団体にて、実務および実習体験を行い、後日「参加報告書」・「研修日誌」を提出します。
4. 一定の条件を満たすと「インターンシップ」として2単位が付与されます。ただし、評価は「認定(N)」です。
5. 企業とのマッチングのため、希望者全員が実習を受けられるとは限りません。
6. 履修登録は不要です。履修制限単位には含みません。

「海外留学科目」

- ① ISEP加盟大学、および中京大学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生並びにセメスター留学で選抜派遣された学生が留学先大学で取得した単位については、原則として現代社会学部の学部固有科目にある科目に読み替えてこれを認定します(成績表上には「N」として認定されます)。
- ② 上記読み替えがきかない科目の中で、現代社会学部教授会が認めた科目については、学部固有科目の「海外留学科目」として認定します。
- ③ 「海外留学科目」として認定できる単位数は16単位までとし、2単位、4単位などの分割認定も認めます。
- ④ 履修登録は不要です。履修制限単位に含みません。

隔年開講科目

隔年開講科目とは原則、今年度開講されれば、来年度休講となる科目です。

《対象科目》 市民活動各論Ⅰ 医療の人類学 宗教の人類学
市民活動各論Ⅱ 開発の人類学
グローバル時代の人類学

卒業論文の提出について

《提出日時・提出先》

提出日	提出時間	提出場所
ALBOで11月に連絡します。 提出日は、基本的に4日間 (12月最終講義日1日、1月上旬3日間)です。	9:00~16:30	豊田教務課窓口

- 【注】①卒業論文提出日は12月に1日間、1月上旬3日間の計4日間を設定しています。
- ②卒業論文の提出は時間厳守であり、いかなる理由によるものであれ『受付期間外』および『遅刻』の提出は絶対に認められません。
- ③論文提出は、教務課窓口にある『卒業論文受付証』に必要事項を記入し、卒業論文と一緒に提出し、窓口で『受付証控』をもらって完了とします。締め切り時間までにこの作業を済ませて下さい。
- ④提出最終日は予備日と考え、前日までに論文を提出するよう心がけて下さい。また、締め切り時間直前は、受付窓口が混雑する場合がありますので、あわてないよう余裕を持って提出して下さい。
- ⑤提出最終日は、公正な締め切り時間の指示をするため、現代社会学部教員が窓口で立ち会います。

【提出形式等】

▼卒業論文の作成方法、書き方など詳細については、必ずゼミ担当教員の指導を受けて下さい。

- ①提出形式 表紙+論文要旨(800字程度)+目次+本文(400字×50枚程度)+注
- ②提出数 2部(オリジナル版とコピー版各1部)
- ③表紙および論文の書き方
 - (1)表紙は現代社会学部指定のものとし(生協購買部で販売しています)。
 - (2)中表紙は、教務課で受け取り必要事項を記入して下さい。
 1. 論文タイトル 2. 該当年度 3. 学籍番号 4. 氏名
 5. ゼミ担当教員名を記入して下さい。
 - (3)論文は、ワープロ書き、手書き、どちらでも可。ワープロ書きの場合以下の字数で作成して下さい。
 - B5版…1ページ800字程度
 - A4版…1ページ1200字程度
 - (4)手書きの場合、B5版・A4版ともに400字詰原稿用紙を使用し、サインペン・ボールペンで記入して下さい。
 - (5)縦書き、横書きどちらでも可
- ④共同執筆の場合は、執筆分担を明らかにして下さい。
- ⑤卒業論文提出は、原則、本人が直接教務課窓口へ提出して下さい。やむをえず代理人による提出を希望する場合は、ゼミ担当教員のみ代理人となることが出来ます(代理人提出の場合も提出日および時間厳守)。

[卒業論文] 中表紙の記入例

_____ 年度	現代社会学部 卒業論文
論文タイトル	

学籍番号	

氏名	

ゼミ担当教員	

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22

オフィス・アワーについて

現代社会学部では、学部の教員が皆さんの学習について相談にこたえるためオフィス・アワーという制度を設けています。授業の前後に質問等ができるのはもちろんですが、研究室等にてより立ち入った質問や学習相談等を受けることもできます。オフィス・アワーの時間帯は教員ごとに設定されていますので各教員に確認し、研究室を訪問して下さい。

学修相談・指導について

現代社会学部では、教務課、学生支援室等、関連する窓口と連絡を取りながら、学修相談等に対応しています。

入学直後、新入生に対する学部オリエンテーションを行います。教員、在校生が共同して、履修に関するガイダンスと個別相談を実施しています。

また、1年の必科目(コミュニケーションスキルI・II)の出席や履修状況の把握を行い、以後、必修ゼミの選択時や、各年次の科目の履修状況を見ながら、適時、学修相談や指導を行います。

2年次から4年次までは、必修ゼミ(演習I・II・III)を通じて、必要に応じて学修状況の把握や個別相談・指導を行っていきます。